

第1回 まち・ひと・しごと創生戦略会議 議事要旨

日時	平成27年8月3日(月) 15時00分～17時00分	
場所	小牧市役所 東庁舎5階 大会議室	
出席者	<p>【本部長】 山下 史守朗 小牧市長</p> <p>【委員】 安藤 仁 名古屋鉄道(株) グループ統括本部 事業企画部 企画担当部長 伊藤 博美 名古屋経済大学 人間生活科学部 准教授 若林 宏保 (株)電通 CDC 総合ディレクションルーム 桑原 かおり (株)ゲイン メナージュケリー編集長 田中 理絵 ママラボ代表 坪井 俊和 大城児童館 館長 土方 裕美 アレルギーっ子のつどい クリスマスローズ代表 小塚 智也 こども未来部長</p> <p>【コーディネータ】 石田 洋一 (株)電通コンサルティング</p> <p>【事務局】 伊木 利彦 市長公室長 舟橋 逸喜 市長公室次長 宇野 嘉高 市長公室 秘書政策課長 舟橋 朋昭 市長公室 秘書政策課係長</p>	
欠席者	なし	
傍聴者	16名	
配布資料	資料1	委員名簿、配席表
	資料2	小牧市市政戦略会本部設置要綱
	資料3	まち・ひと・しごと創生戦略会議について
	資料4	小牧市まち・ひと・しごと創生総合戦略等の策定に係る基本方針
	資料5	小牧市まち・ひと・しごと創生総合戦略策定スケジュール(案)
	資料6	人口の経年動向把握と将来推計
	資料7	人口課題の特定と目標設定
	資料8	生活者の居住地選定要因とニーズの探索
	参考資料1	小牧市審議会等の会議の公開に関する指針
	参考資料2	小牧市情報公開条例(抄)

■主な内容

1. 開会

(1) あいさつ

人口減少は今後、全国的に厳しさを増してきている。小牧市はまだまだ活力を維持しているものの、いずれ人口減少、少子高齢化の波が押し寄せてくる。

今回の「まち・ひと・しごと創生総合戦略」の中で、原点に立ち返って分析を行い、小牧市にあった独自の戦略を策定していきたい。

(2) 会議の運営等について

資料4. 5を説明

※会議の方針、年間会議、戦略策定スケジュールの確認

2. 議題

(1) 会議の公開について

会議の「公開」「非公開」について審議。⇒「公開」で実施。

(2) 人口の経年動向把握と将来推計

【安藤委員】

・転出の多い20代、30代の方の転出理由は何か。

【コーディネータ】

・転出の理由は不明だが、転入の理由は、議題の3のアンケートにおいて把握している。
・長久手市や日進市などの人口増加率が高いまちには、どのような特徴があるか。

【桑原委員】

・長久手市や日進市は半年ごとに新店、新しいコンテンツが生まれメディアの露出が多いまち。こういったまちに若者が足を運ぶイメージがある。「おしゃれな街」というブランド力が高まっているのではないかと。決して交通の便が良い訳ではないが、愛知県は車社会なので問題ないのではないかと。

【安藤委員】

・長久手市、日進市は土地区画整理による新規の宅地供給が盛んである。
・阿久比町も、宅地分譲の売れ行きがすごくよい。近隣に工場が多くあるため、雇用の影響が強いのではないかと。

【坪井委員】

・長久手は住民参加により劇場・図書館・幼稚園・保育園などを整備し、「図書館通りに住みたい」というステータスが生まれたと聞いたことがある。小牧市もこれから新図書館を整備するため、そういう効果が考えられるのではないかと。

(3) 人口課題の特定と目標設定

【小塚委員】

- ・小牧市は子育て支援施策を先駆けて行っているが、長久手など他市の取り組みについて、把握していきたい。

【若林委員】

- ・若い人達の仕事観、ワークスタイルが変化しているので、「子どもの夢をかなえるまち」、「夢を実現する産業とのつながり」のイメージをつくっていくのがいいのではないかな。
- ・“住のブランディング”を名古屋市の人にもわかるような視点も必要。
- ・常にメディアの中でうまくニュースが作られていくことが必要である。

【伊藤委員】

- ・40代は子育てが定着していく年代なので、この年代が増えているのはポイントではないかな。

【安藤委員】

- ・子育て施策が充実しながら、本市と同様に20代、30代の転出超過が顕著な他市の転出者アンケートにおいて、「ライフスタイルに合う賃貸住宅がないから転出する」との分析がある。小牧市でも、今のライフスタイルに合う住宅の供給ができていないのではないかな。一方、40代のライフスタイルにはマッチしているのではないかな。

【山下本部長】

- ・結婚・出産期は20代—30代にあたる。今の40代が30代のときには転出超過だったのかもしれない。

【坪井委員】

- ・桃花台ニュータウンの中には、名古屋への勤務に便利だからという理由で、春日井に家を買って移り住むという声を聞く。

【田中委員】

- ・働きながら子育てをする女性は、家の近くで何かあったときにすぐに家に駆けつけることができる職場を望む。男性の雇用だけでなく、アルバイト・パートタイムも含めて雇用があるという点はプラスになると思う。その他、治安と教育がいいと家を買おうという話になるのではないかな。

【山下本部長】

- ・小牧市は工業都市であり外国人比率が高いため、治安に対するイメージがよくない傾向がある。

【田中委員】

- ・外国人が多いまちであっても、住民と協力して明るいフラッグシップを発信していけば、イメージアップが図れるのではないかな。

【若林委員】

- ・小牧市は街が点在していて、シンボリックな場所を見つけにくい。シンボリックな場所を作っていくといい。

【小塚委員】

- ・小牧市には児童センターと7つの児童館があり、英語に親しむプログラムを実施するなど、充実している。小牧市としてPR方法を考えていく必要がある。

【山下本部長】

- ・子ども施策などは充実しているが、子育て世代が家を購入して住むというイメージづくりが弱い。子育て世代が求めているものは、子育て施策だけではないのかもしれない。

(4) 生活者の居住地選定要因とニーズの探索

【山下本部長】

- ・小牧市は商業施設の充実、育児環境、治安、緑地が、選定前のイメージと居住後のイメージの乖離が大きい。

【桑原委員】

- ・ブランドのロゴマークは、市内でしか目にしないのではないかと。市外にもアピールした方が、小牧市は子育てに力をいれているまちだ、として認識されるのではないかと。
- ・外国人の方が多いという話があったが、小牧市は外国の文化と触れ合いながら子育てできるということをアピールすればいいのではないかと。
- ・市民四季の森は、県内でも人気のある公園なので、もっとアピールした方がいい。

【小塚委員】

- ・小牧市には市民四季の森、温水プール、えほん図書館があり、住んでいる方にとっては子育てしやすいまちというイメージがあるかもしれないが、小牧を知らない方にとってはそういうイメージがないのかもしれない。
- ・小牧市では近隣の他市に先駆けて、中学生までの医療費無料化や放課後児童クラブを実施している。また、保育園・幼稚園の3人目の保育料を全額補助（所得制限なし）しているが、そうした市は少ないと思うので、是非知っていただきたい。

【土方委員】

- ・小牧市民でない人が、小牧市の児童館やえほん図書館、四季の森を気に入って利用しているほど、小牧市には魅力的な施設がある。
- ・ライフスタイルにあった居住地がないという理由で、小牧市外に住んでいるという話を聞いたことがある。

【安藤委員】

- ・資料6の8ページにおいて圧倒的に20-30代の転出が多いというのは、この年代の人たちが小牧市に住むことに対して何らかの抵抗があるということを示しているため、この点について、きちんと向き合った方がよい。

【山下本部長】

- ・行政は、市民に対して市民サービスの提供をしているので、これまで市外に対してPRというのはしてこなかった。この地方創生を機に、外に向けて発信していくことは新たな視点である。
- ・なぜ転出していくのかを深掘りして、イメージが不十分なのか、あるいは他の問題なのかを議

論していきたい。

3. 【閉会】